

「ツール」としての英語,
「ルーツ」としてのアラビア語の狭間で

—アラブ首長国連邦における大学生のアイデンティティの行方—

木 村 有 里

「ツール」としての英語, 「ルーツ」としてのアラビア語の狭間で —アラブ首長国連邦における大学生のアイデンティティの行方—

木 村 有 里

目 次

1. はじめに
2. アラブ人とアラビア語を取り巻く社会的・歴史的背景
 - 2.1 アラブ人の形成
 - 2.2 アラビア語と聖典コーラン
 - 2.3 国民国家UAEの成立
 - 2.4 UAE人の言語
3. 先行研究
 - 3.1 アイデンティティ
 - 3.2 UAEにおけるアイデンティティ研究
 - 3.3 UAEにおけるオンライン会話でのアラビア語
 - 3.4 エジプトにおけるオンライン会話でのアラビア語
4. UAEにおけるインタビュー調査
 - 4.0 目的
 - 4.1 調査方法
 - 4.2 インタビュー調査：言語に関する質問群とその結果
 - 4.3 分析
5. 考察
 - 5.1 「ルーツ」を見失う学生
 - 5.2 大学教員へのインタビュー調査：学生のアラビア語の変容
6. 現在の言語状況
7. まとめ
8. 調査の限界と今後の分析課題

1. はじめに

21世紀, 人々の移動はますます容易になり英語は英語母語話者に限らず, 異文化の人々との交流においても不可欠な言語である。また英語は世界の情報を得る為の媒介語, 専門知識を得るための言語, そして社会的・経済的な成功を得る為の言語でもあることから, 結果として国家を発展させるという役割も持つことになり世界各国で重視されている。特に英国の旧植民地であったアジアやアフリカの国々では, 今も尚, 英語は共通語として使用され, またその土地特有の訛りの影響を受けた英語が独自の発展を遂げている。その結果, 現在これら独自の英語をWorld Englishes (世界諸英語)⁽¹⁾として認める傾向にある一方で, 母語と英語の二言語使用によるアイデンティティの揺らぎが問題視されている。

アラブ首長国連邦 (以下UAE) は多文化の人々が共生する社会である。UAEは油田が発見された1960年以降, 外国人労働者数が急増し, 2010年の時点ではUAE人が11.5%⁽²⁾, 外国人が88.5%⁽²⁾と世界的にも稀有な人口構造になっている。それ故UAEの公用語はアラビア語であるが, 英語が事実上の共通語となり若年層では英語を重視する傾向が強く, アラビア語の衰退, そしてUAE人としてのアイデンティティの喪失を危惧する声が高まっている。本論では, アラブ人大学生の二言語使用に焦点を当て, 1. アラビア語の変容と2. アイデンティティの所在をKachruによるWorld Englishesの「規範的特徴の分類」を用いて分析し明らかにする。

2. アラブ人とアラビア語を取り巻く社会的・歴史的背景

2.1 アラブ人の形成

「『アラブ』という言葉は, [中略] シリアからアラビア半島北部にかけての「砂漠の遊牧民 (ベドウィン)」という意味」(松本, 2013)⁽³⁾に由来し, イスラム教の拡大により, 現在はアラビア半島及び北アフリカの人々も指す。それ故, 人々はそれぞれ異なる歴史や文化を保持しているが, 彼らをアラブ民族として意識させたものは度重なる列強による支配からの独立運動であった⁽⁴⁾。

まず20世紀初頭にアラブ諸国は英仏の国益を元に国境線が画定され, 委任統治や保護領, 植民地体制に置かれた⁽⁵⁾。1956年にはエジプトのスエズ運河の国有化をめぐる英仏と第二次中東戦争 (スエズ戦争) が勃発

した。エジプトの勝利にはアラブの広域的な団結がカギを握ると考えたナセル大統領が, アラブ諸国にこの勝利が独立を導くことを唱えた。その結果, 大統領は他のアラブ世界でも英雄として称賛され, これによりアラブ人としての意識がより一層強固なものとなった。

2.2 アラビア語と聖典コーラン

アラビア語は国連の公用語の1つで, 母語話者数が2.46億人⁽⁶⁾と世界第5位の言語である。紀元前2500年から紀元前600年にかけてメソポタミア地方で話されていた言語が起源とされ, 570年頃に預言者ムハンマドがイスラム教を創始したことによりアラビア語も普及した。聖典であるコーランは「宗教」というよりも「生活の規範」に近く, アラブの部族的秩序とも一致したことから, 人々の間で口承され浸透していった。現代でもコーランは, イスラム教徒にとって人生の羅針盤であり生きるための支えとなっている。

コーランの文体の特徴は, 詩と散文の中間形体で修辭法を使い, 韻律に優れ, 表現が簡潔明解である。現在もその文体は維持され, アラブ人の間で文語の1つとして使用されている。フェルスターヘ (2015)⁽⁷⁾は「標準アラビア語 (文語体) がアラブ世界を統一している最も重要な要素となりアラブ統一のシンボルになっている」と述べている。

古典的な文語が共通語として使用される一方で, 日常的には異なる方言が話されている。特にエジプト方言とアラビア半島の方言は著しく異なるが, 今日, エジプトが中東のメディア界の中心的役割を果たしていることから, エジプト方言は広域で理解されている。

このように, アラビア語にはコーランや詩を中心とした文語 (フスハーとも呼称される) と, 民衆が日常的に方言として話している口語 (アンミーヤとも呼称される) の2つの言語形態に分かれている。ファーガソン (1964)⁽⁸⁾は, このような二言語使用の状態をダイグロシア (言語二層状態)⁽⁹⁾と提唱した。

しかし近年この言語二層状態に加え, 多くのアラブ諸国では英語を重視もしくは共通語として使用していることから, 言語形態の変容が問題視されている。そのため, 汎アラブ・フォーラムを開催する等, 団結してアラビア語の保護活動が盛んに行われている。

2.3 国民国家UAEの成立

国民国家とは16世紀頃にヨーロッパで生まれた概念

で、本畑 (1995)⁽¹⁰⁾によると「国民国家 (ネーション・ステイト) とは、国境線に区切られた一定の領域からなる主権を備えた国家で、その中に住む人々 (ネーション=国民) が国民的一体性の意識 (ナショナル・アイデンティティ=国民的アイデンティティ) を共有している国家のこと」と定義している。しかし、前述の通り中東は、植民地の宗主国により画定された国家⁽⁵⁾であるため、中東における国民国家とヨーロッパの国民国家とは異なる。ハリーク (2002)⁽¹¹⁾は、UAEについて「独立した首長や王家が『非宗教的』な権威を行使する」国家と定義している。

UAEには紀元前2700年頃から遊牧民が住み、部族を基盤とする社会が成立していた。19世紀には英国がドバイをインド航路の中継地点として利用していたことから外国商人の往来が盛んで、イランやパキスタン、インドからの出身者が多数居住していた。

1971年にUAEは英国から独立し7つの首長国から成る国民国家として誕生した。掘抜 (2009)⁽¹²⁾によると「初代大統領ザイド・ビン=スルタン・アル=ナヒヤーンは『部族長=部族構成員』という伝統的な社会形態から『国家=国民』へ再編成した。1972年にはUAE国民つまり石油の恩恵を享受できる対象を定めるため、国籍法が制定された」。以降、UAE国籍の取得は周辺国のアラブ人の帰化でさえ困難となり、その結果、現在UAE国民の人口が外国人労働者に比べ極少数派という状態にある。

2.4 UAE人の言語

UAEは世界的にも石油国家として周知されているが石油埋蔵量の94.27%⁽¹³⁾はアブダビ首長国にあり、ドバイ首長国の埋蔵量は4.09%⁽¹³⁾と枯渇が近いことからドバイは石油依存から脱却し、産業の多角化を図り外国人に様々な誘致政策を行ってきた。その結果、現在約200ヵ国⁽¹⁴⁾の人々から成る多民族国家となり人口の9割が外国人、1割がUAE人と多文化の人々が共生し国家の繁栄を支えている。このような状況から、UAE人であっても英語を話すことができなければ日常生活を送ることは難しく、特に若年層にとって英語は将来を左右する重要な言語となり生徒の間ではアラビア語離れが進んでいる。

2011年5月14日付のThe National紙によると、UAEの知識・人間開発機構が生徒の就学状況について調査した結果「UAE人の57%の生徒が英語で教育を行う私立校に通い、毎年7%の生徒がアラビア語で

教育を行う公立校から私立校へ転入している」⁽¹⁵⁾と発表した。

アラブ文化の衰退を危惧する政府は、2000年頃からアラビア語やアイデンティティ保護政策を打ち出している。2005年には、UAE人の伝統的遺産とアイデンティティを守るため「ワタニー (祖国)・プロジェクト」を立ち上げ、若者に言語やイスラム文化の価値観を教えアイデンティティを喚起した。また大統領は2008年を“National Identity Year”と宣言し、アイデンティティの保護にあたり各地で様々なイベントが開催された。その一環として、それまでUAE政府内で広く使用されていた英語を禁止し、政府内の公用語をアラビア語と決定した。2012年には、2002年に制定されたアラビア語憲章を改正し復興に尽力している。しかし共通語が英語であることで経済発展を遂げている現状では、政府にとってアラビア語の保護は非常に解決し難い問題となっている。

3. 先行研究

3.1 アイデンティティ

日本人は日頃、単一文化の中で生活をしているため「自分は何者であるのか」と問うことは稀である。しかし、多文化の人々が共生する社会に身を置くと、自分と他者の差異が顕在化し自分自身を意識するようになり葛藤に陥ることがある。このような現象について星川(1998)⁽¹⁶⁾は「異質なものとの『接触』がアイデンティティという問題を考える際の鍵となる」と指摘する。

アイデンティティ (自我同一性、主体性) という用語は、E.H.エリクソン (1982)⁽¹⁷⁾により確立された。彼によると自我アイデンティティとは、「児童期の継続的な危機を通して子供に伝達される社会的現実という『環境』の果たす総合化機能の結果であり、青年期の自我の最も重要な達成物である」と定義する。このようにアイデンティティには社会環境が大きく影響を与えている。

アラブ諸国におけるアイデンティティについて板垣 (1992)⁽¹⁸⁾は、「民族 (カウム)、祖国 (ワタン) に属する国民、国家 (ダウラ) に属する国籍、そして宗教であるイスラム共同体 (ウンマ) という重層的なアイデンティティを有している」と定義しているが、その中でもアラブ人のアイデンティティの中核を成すものはイスラム教であろう。

ムッサラーム (1984)⁽¹⁹⁾は、アラブ人のアイデンティティの本質について「アラビア語の言葉と文化、そ

表2 エジプトにおける言語と文字の使用

	フォーマルなメール	カジュアルなメール	チャット
英語	37名 (92.5%)	35名 (83.3%)	22名 (71%)
文語アラビア語 (アラビア文字)	4名 (10.0%)	4名 (9.5%)	2名 (6.5%)
文語アラビア語 (ローマ字)	1名 (2.5%)	7名 (16.7%)	3名 (9.7%)
エジプト方言 (アラビア文字)	0名 (0%)	2名 (4.8%)	5名 (16.1%)
エジプト方言 (ローマ字)	4名 (10.0%)	21名 (50.0%)	17名 (54.8%)

(Warschauer, (2002), Table1. "Language and script use" より一部抜粋⁽³⁰⁾)

英語を用いる理由は職務上での使用に加え、アラビア語のPCソフトの機能が欠如していることも要因であると述べている。またオンライン上ではハイブリッド言語が使用されアラビア語の表記方法に変化が現れている。このように社会的地位の高い人々が英語使用を好むことに加え、貧困層では文語アラビア語の非識字率が高いことから、文語アラビア語を使用する人口が減少することが考えられるとWarschauerらは指摘する。これにより従来のアラビア語のダイグロシアは上位変種が英語となり、下位変種がエジプト方言となることで、文語アラビア語が縮小すると予想されている。またこのような状況が続けば、エジプト人としての伝統的なアラブのアイデンティティが脆弱化することも推測されている。

El Essawi (2011)⁽³¹⁾によると、ハイブリッド言語はオンライン上のみならず、親しい間柄でのメッセージや街の看板でも使用され一般的な言語としても普及している。特に若年層の間ではハイブリッド言語の使用頻度が高いため、ハイブリッド言語をアラビア語存続の手段や解決策として考慮する必要があるのではないかと述べている⁽³²⁾。

以上、先行研究を紹介したが、現在発表されている論文は主に英国人の大学英語教員による論文が多く、オリエンタリズムの視点⁽³³⁾から議論されている。UAEにおける研究でFindlowは「UAE人学生は2つの言語を通して新たな国民的アイデンティティを構築している⁽³⁴⁾」と結論付けているが、むしろアイデンティティに揺れが生じているのではないだろうか。2つの言語の狭間で苦悩する学生については5章1節で詳述する。PalfreymanとAl Khalilの研究では「ハイブリッド言語はグローバリゼーションのコンテキストに

おいてUAEの言語の威信となる⁽³⁵⁾」と指摘しているが、本調査で学生はハイブリッド言語を頻繁に使用する反面、アラビア語の変容について懸念していた。この点については4章3節2項で述べる。

エジプトの事例はUAEでも見られ、アラビア語の変容や衰退は、アラブ圏全体が抱える問題であることが分かる。英語の拡大に加えオンラインの出現は「アラビア語に革命」を引き起こしているといえ、アラビア語は勿論、アラブ文化が大きく変容することが予想される。

4. UAEにおけるインタビュー調査

4.0 目的

本論は、アラブ人大学生のアラビア語と英語の二言語使用によるアイデンティティの所在について解明することを目的とする。UAEの先行研究では、二言語使用について肯定的な結果が示された。しかし、母語であるアラビア語より共通語である英語が優位にある現状を考えると、その深層には負の側面も存在すると思われる。

本論では、主に大学生の英語とアラビア語に対する意識を中心に、なぜ英語を重視するのか、母語の意義とは何か、どのようなアイデンティティを保有しているのか、という点について母語の視点からUAEの言語状況に迫り新たな発見を提示する。

4.1 調査方法

本研究にあたり、筆者は2010年5月31日から6月10日までドバイとドバイに隣接するシャルジャで調査を

行った。インタビューは4校の大学生20名に対し各大学のカフェテリアで実施した。

調査対象者の内訳は、ドバイの国立サイード大学の学生8名、私立アメリカン大学2名、そしてシャルジャにある公立シャルジャ大学1名、私立アメリカン大学9名で全員初対面である。対象者は主に1・2年生で、専攻は健康科学、メディア・コミュニケーション、教育、IT、英文学、国際政治、経営管理、ファイナンス、土木工学、電気工学、機械工学と多岐に渡る。学生の抽出については、サイード大学で日本語教育を担当していた松原直美講師(当時)の学生と、アメリカン大学でアラブ文学と翻訳科目を担当していたAl Buloshi講師(当時)の学生に調査を行った。他の学生は大学内のカフェテリアにいた学生で、基本的に日本や海外に関心を持つ学生が多かった。国籍はUAE人14名、エジプト人5名、シリア人1名で、UAE人を除くアラブ人学生は幼少期からUAEに居住している。性別は男子学生9名、女子学生11名である。それぞれに半構造化インタビューを行い1名につき約30分実施した。

また学生の他に、アラビア語教育を専門とする大学教授1名と講師1名、そしてアラビア語保護協会の理

事長1名にそれぞれのオフィスで約1時間のインタビューを行った。インタビューは英語で実施し、音声は英語に文字化した後、論文に掲載する箇所は筆者が日本語に翻訳した。

4.2 インタビュー調査: 言語に関する質問群とその結果

言語に関する主な質問とその結果は下記の通りである。

表3 質問群

- | |
|--|
| Q 1. 親とは何語で話すのか。 |
| Q 2. 兄弟とは何語で話すのか。 |
| Q 3. アラブ人の友人とは何語で話すのか。 |
| Q 4. メールは何語で書くのか。(この調査のみ追加として21名にE-メールで行う) |
| Q 5. 文語アラビア語についてどのように思うのか。 |
| Q 6. TV・映画はどちらの言語を好むのか。 |
| Q 7. コーランは読むのか。 |
| Q 8. 希望する職種は何か。 |

表4 結果：日常的に使用する言語 ※両方(コード・ミキシング⁽³⁶⁾ / コード・スイッチング⁽³⁶⁾)

	アラビア語(名)	英語(名)	両方(名)	回答例
Q 1. 親	18	1	1	・親が英語を話せない ・親が英語で話されることを嫌う
Q 2. 兄・弟	3	1	16	・学校の話題については英語で話す ・英語で話す、が、家族の次世代の言語が英語にならないよう彼らにアラビア語を勉強させる必要がある
Q 3. 友人	7	1	12	・アラビア語に英語を混ぜる ・午前は英語、午後はアラビア語と使い分ける ・英語のフレーズが無意識に出る ・学問の内容は英語で話す
Q 4. メール	6/21	15/21	0	・アラビア語圏と非アラビア語圏の人に同時に送れる ・英文のタイピングに慣れている ・ハイブリッド言語を使うが、この言語を使うと文法を忘れてしまう。この問題は後に社会に戻ってくる
回答例				
Q 5. 文語アラビア語	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の他に単語の一部を変化させるだけで形式や意味が異なるため複雑だ ・アラビア語を書く際、多くの注意や集中力そして想像力を必要とする ・多数の方言がある一方、文語が私たちを統一しているが、危機的状況にある ・否定的なイメージを持つ人もいるが、アラビア語はアイデンティティだ ・アラビア語を話せなかったら、アイデンティティが変わり自分を見失う ・アラブ文化、アラビア語、UAE国籍に属することを誇りに思う 			

表5 結果：視聴する言語

	アラビア語(名)	英語(名)	両方(名)	回答例
Q 6. TV/映画	1	10	9	・アメリカのドラマや映画が好き ・英語の勉強になる ・アラビア語の番組は面白くない
Q 7. コーラン	17 (他3名に ついては 4.3.3を参照)	0	0	・英語やローマ字表記のコーランを読むよりアラビア語 で読む方が深い意味が見えてくる ・就寝前にコーランを読むと守られている気持ちになる ・級友にコーランを英語で読む人がおり驚いた ・英語・アラビア語どちらで読もうが構わない

表6 希望する職種

Q 8. 職種	建築	政府 機関	IT	金融	メディア	グラフィック ・デザイン	保育士	栄養士	留学・他
男子(名)	3	2	1	1	0	0	0	0	2
女子(名)	0	3	0	1	3	2	1	1	0

4.3 分析

4.3.1 インタビュー分析の枠組

インタビュー分析の枠組みは、B.B.Kachru (2006, p.455) によるWorld Englishesの「規範的特徴の分類」の2項目を用いる。

1. 文の構造変化 (混合変種)
2. 文化変容の多様性 (社会文化的, 宗教的, 相互作用的状況による影響)

これらの分類をUAEのアラビア語使用状況の枠組みとして用いることで、アラビア語の変容の特徴を明らかにし、どのように学生のアイデンティティに影響を及ぼしているのかを明らかにする。

4.3.2 文の構造変化 (混合変種)

文の構造変化とはある言語にもう一方の言語の言葉を混合もしくは、文を転換する状態であり、旧植民地であった地域において頻繁に行われている。まずは口語の使用について提示する。

Q1の親との会話については親が英語を話せないという理由から学生はアラビア語を使用している。しかし、UAEでは子供の数が多いため家には外国人の乳母、メイド、運転手も同居しており、彼らは、フィリピン、インド、インドネシアからの出身者が多く学生は自宅でも英語を使用している。

Q2の兄弟との会話については、学生の弟妹世代は、全て英語で教育を行う私立校に通う生徒が増加していることから、学校やテレビ番組等の話題に関しては英

語を使用しており、学生は家庭ではアラビア語と英語を状況に応じて使い分けていた。しかしこのような状況について、一部の学生は次世代の家族内言語が英語にシフトすることを懸念しており、弟妹世代へのアラビア語教育の必要性について熱意を込めて語った。

Q3の友人との会話については、基本的にアラビア語で話すそうだが、15名の学生がアラビア語と英語を混合する方が容易であると述べ、コード・ミキシングやコード・スイッチングを頻繁に行っていた。

Q4のE-メールについては英語を使用する傾向が強く、理由としてアラビア語圏と非アラビア語圏の人々に同時に送信できる点を挙げている。携帯メールに至っては、文章に英語と口語アラビア語を混合できるという理由からハイブリッド言語を使用する学生が多い。一部の学生はこの言語の使用についてアラビア語の文法の簡素化に繋がりがかねず、いずれ社会問題として顕在化するだろうとアラビア語の変容を危惧していた。

次にQ5の古典的文体の流れを汲む文語であるが、アラビア語を重視する公立校へ通っていた学生でさえ困難であると異口同音に答えた。アラビア語の中で特に難しいのは「動詞の派生形」だろう。本田 (1998)⁽³⁷⁾によると、アラビア語の動詞は9種類の派生形に加え、それぞれ未完了形、命令形、受動態、分詞、動名詞があり、たとえば「行こう」فعل هو75種にも変化する。単語によっては接頭辞を付ける、もしくは文字の上下につける母音記号 (فعلの上に´やwの記号) の変化によっても意味が変わるためこれが学生にとって最

も難解なようである。複雑な文法に加えアラビア語には、ダイグロシアという上位変種と下位変種が存在することもアラビア語離れの原因である。学生によると上位変種である文語と下位変種の口語は40~50%異なるとされ、また同じ文字でも文語と口語では発音が変化する。このような複雑な言語構造に加え英語も学ぶため、文語アラビア語を習得することは非常に困難である。このような状況に対し学生は、文語アラビア語の衰退を懸念する一方で、文語はアラブ民族を統一させアラブ人にとってアイデンティティであると認識している。学生のアラビア語に対する見解とアラビア語保護協会の理念はほぼ一致している。下記にその一部を抜粋する。

アラビア語とはアラブ文化とイスラム教を守り、人々を繋げる最も重要なことばである。[中略]もし民族のことが消滅したならば、民族自体も消滅し、対立する勢力がアラブ民族を支配することになる。この問題を解決するためには、行政、民間、人民が一丸となって協力する必要がある。これらを統制するのがアラビア語保護協会である。⁽³⁸⁾

以上、学生のインタビューから、学生は口語アラビア語には英語を混合し、オンライン上ではハイブリッド言語という新しい書記方法を使用していることが明らかになった。文語については苦手意識を持つ学生が多く文語アラビア語が大きく変化することが予想される。その一方でアラビア語の変容や衰退に危機感を覚える学生もあり、UAEは正に言語シフトの過渡期にあるといえる。

4.3.3 文化変容の多様化 (社会文化的、宗教的、相互作用的状况による影響)

多文化共生社会であるUAEに深く浸透しているのが、旧宗主国の英国と世界の大国である米国の文化で、特にUAEでは英語が共通語であることから英米のメディアの波及効果が大きい。Q6のテレビ番組や映画については、アメリカのドラマや映画が好きであるという理由から英語を好む傾向が強かった。UAEは年間を通し厳しい気候であるため、UAE人の中では屋内で楽しめるテレビや映画鑑賞が人気であり、特に若年層はそこに映し出される欧米文化に憧れを持ち、また影響も受けている。

Q7のコーランについては、シリア人のAはキリス

ト教徒であるため読まず、Bはアラビア語の能力が非常に低いため読めないと回答した。Cは現在アラビア語を習得中で読めるよう試みていると述べた。これら3名を除く学生はアラビア語でコーランを読むという結果であった。大多数の学生は、コーランをアラビア語で読むことで、内容を深く理解し心が安らぐと語った。しかし学生の級友には、コーランを英語で読む人もおり違和感を覚えていた。これに対しある学生は英語で読んでも構わないと話し、宗教に対する概念も多様化しつつあるようであった。

上記から、アラビア語は学生にとって「アイデンティティの言語」、「アラブ民族を団結させる言語」、「コーラン (信仰) の言語」といえ心と密接に繋がる「ルーツ」の役割を果たしていると言えるだろう。しかし、アラビア語がもつ難解な文法やダイグロシアである言語二層化は、学生が文語を習得する上で大きな障害となっている。現在の言語二層化が、今後、英語を含む言語三層状態へと変化することが考えられる。

4.3.4 希望する職種

言語に関する質問の他に、Q8の希望する職種についても質問を行った。男子学生に人気のある職業は、建築関連、政府機関、IT、金融関連であった。女子学生については、メディア、政府機関、グラフィック・デザインが人気であった。政府機関では、アラビア語も必要とされるが、他の職業では英語力が重視される職業である。学生は、職場での言語についてアラビア語より英語の使用頻度が高く、外国人労働者とコミュニケーションを図る上で英語は不可欠な言語であると認識していた。

以上、学生の言語の使用状況から、大学の講義は英語で行われ、家庭でも兄弟姉妹と学校の話題に関しては英語を使用していることから、学生にとって英語は「学問の言語」といえる。また希望する職業もアラビア語より英語力が要求される職種を好んでいることから「職業の言語」である。また職場では外国人と意志疎通を図るためには英語が必須であると考えていることから「外国人とコミュニケーションを図るための言語」といえる。従って学生にとって英語は、学問、職業、外国人と関わる手段、すなわち「ツール」⁽³⁹⁾として認識しているといえるだろう。

5. 考察

5.1 「ルーツ」を見失う学生

インタビュー調査の結果から学生は、「ルーツ」としてのアラビア語と「ツール」としての英語を状況に応じて使い分けていたが、20名の内2名の学生が2つの言語の狭間で苦悩を抱えていた。

シャルジャ公立大学の英文科に通うCは、活発な印象の学生で、民族衣裳を纏っているがその下にはジーンズを履く現代的なUAE人である。彼女は高校まで英国系の私立校に通学していたが、高校3年の課外授業で社会科学見学のため銀行を訪問したところ、英語の他にアラビア語も使用されている現状を知り初めてアラビア語の必要性に気づいたという。大学入学にあたり国立UAE大学を受験したが、アラビア語の能力の低さにより不合格となり、改めて母語の重要性に気づき、敢えてアラビア語重視の大学に入学した。しかし母語話者のアラビア語の能力には未だ届かず、家庭内でもコード・ミキシングを行っており、涙を浮かべながら心の内を次のように述べた。

正しいアラビア語を話せないのは家族や友達の中で私ひとりだけ。今でもアラビア語を正しく発音するのは難しい。誰も母語で恥をかくことはないから間違った言葉で話したくない。だから黙っているか、英語で話す。アラビア語でどう言うかわからないし。

また彼女の従姉妹はほぼアラビア語を話すことができないため、彼女らと話す時は英語で話す。従って祖父母とは挨拶程度のアラビア語しか通じず、簡単なアラビア語会話すら成立しないという。コーランについてはアラビア語で読むよう努めているが、従姉妹達はコーランを読めないと話す。Cは「私のアラビア語が英語以上のレベルになるよう頑張る」と前向きに述べ、現在もアラビア語の上達を目指し奮闘している。

Cの他にもう1名のアラビア語を話せないBは黒い民族衣裳を纏う大人しい印象のUAE人女子学生である。ドバイのアメリカン大学のカフェテリアで寛いでいたためインタビューを依頼した。彼女は子供の頃から西洋文化が好きである点と、父親がアメリカに留学していた影響から大学まで私立校に通っている。そのためアラビア語をほぼ話すことができず友人も外国人が多い。家族とはアラビア語で話すこともあるが、1

つのセンテンスをアラビア語だけで終えることは難しく父親とは英語で話すという。母親はアラビア語を話せない彼女に対し不満を抱いており、アラビア語の単語が不明な時に教えて欲しいと頼んでも「子供の時に学ばなかったあなたが悪い」と言い取り合ってくれないと話した。従って英語を話せない母親や祖父母と話す時は妹が訳すといい、涙ぐみ言葉を詰まらせながら次のように語った。

私はなぜこの国に生まれたのかわからない。アラビア語は大事だとは思う。でもUAE人が少ないから、アラビア語やアイデンティティを保つのは難しい。

アラビア語の読み書きがほとんどできないことからコーランは読まないがラマダン中は断食をするという、アラブ人としてのアイデンティティを構築しようと努めている様子であった。

学生にインタビュー調査を行う以前はアラビア語より英語の方が堪能な学生は、英語力の高さに優越感を持っていると考えていたため、上記2名がアラビア語を話せず劣等感を持っていることは発見であった。また、初対面の筆者の前で始めは明るく話していたものの、次第に困惑した表情になり涙ぐむ様子は、母語の話を通じ過去の様々な経験が蘇ったことが背景にあると思われる。上記から母語には自己のルーツを辿り、また心を支える要素が含まれていることから、母語を保持しない場合、いかに自己確立が困難であるか明かになった。

5.2 大学教員へのインタビュー調査： 学生のアラビア語の変容

シャルジャのアメリカン大学でアラブ文学と翻訳の科目を担当するUAE人講師のAl Buloshiは、ユネスコの資料の翻訳家でもある。そのため翻訳法の指導にあたり言語の背景にある文化的観念も盛り込みながら講義を行っているが、学生のレポートについて次のように話す。

彼らの文語の能力は低く、多くの文法とアラビア語表現が欠如している。学生は英語の表現をアラビア語に訳す時、英語での考えをそのままアラビア語に訳しており、アラビア語で考え本来のアラビア語の表現を使わない。つまり観念が他の文

化に頼っている。

彼女のインタビューから学生のアラビア語能力の向上を図るためには「言語」という表面のみを強化するのではなく、内面の「観念」も保護することも必要だろう。

ドバイのアメリカン大学のアラビア語教育を専門とする教授Malekは、初級から上級のアラビア語教育に加え、アラブ文学、翻訳の科目も担当している。アラビア語の授業はアラビア語で行うが、アラブ文学、翻訳の授業は英語で行っている。彼はドバイのアラビア語について危機感を募らせる。

学生はアラビア語より英語でのコミュニケーションを好む。アラビア語で話せるのに多くの英語やペルシャ語、インドの言語も散りばめる。文語アラビア語も文法やスペル・ミスが多い。

また近年、街で『ピジン・アラビック⁽⁴⁰⁾』をよく聞くようになった。それは特に子供たちがイスラム教徒であるパキスタン人やインドネシア人の乳母から習得しているためだ。

街の看板も外国人労働者が作成しているため誤字のアラビア語表記が氾濫しており、Malekは教育の一環として学生と誤字の看板を見つけては議論し、また商工会議所に報告している。アメリカン大学では、アラブの文学や翻訳の他に歴史や社会学等の科目も英語で開講することで学生の興味喚起を図っており、アラブ文化の教育には、もはや英語が不可欠な言語となっている。

6. 現在の言語状況

2015年3月1日付のThe National紙⁽⁴¹⁾『UAEではアラビア語が外国語になる恐れがある』と題した記事が掲載された。記事には多数のアラビア語教員らの声が寄せられており「UAE人の生徒でもアラビア語を流暢に話せない」、「英語が彼らの母語となり、アラビア語が第二、第三言語になっている」、「このような現象は私立校生に見られる傾向だったが公立校の生徒にも見られるようになった」等、既にアラビア語の変容を超え、英語が第一言語に転換しつつあるようである。また2016年6月12日付のThe National紙⁽⁴²⁾には『UAEの教育現場では外国人教員に対し大きな需要』と題した記事が掲載され、「私立校、公立校では、英語で授

業を行うことができる教員数千人を募集しており、特に化学、数学、テクノロジー分野の経験があることが望ましい」と報じている。教育現場では更に英語教育を強化する傾向にあり、学生の言語がより一層英語に傾倒していくことが予想される。

7. まとめ

学生のインタビュー分析の結果から、学生は英語を「学問」、「職業」、「外国人とコミュニケーションを図る手段」、すなわち「ツール」として認識しており、アラビア語に対しては「アイデンティティの言語」、「アラブ民族団結のための言語」、「コーランの言語」つまり「ルーツ」として認識していることが分かった。学生は「ツール」である英語と、「ルーツ」であるアラビア語を状況に応じて使い分けていたが、ある学生は家族内言語が英語にシフトする可能性に不安を抱き、また他の学生は英語拡大によるアラビア語の衰退を懸念するなど、英語を「ツール」と認めつつも、複雑な心境であることが明らかになった。これに対し特に文語アラビア語については苦手意識を持つ学生が多数を占めたが、アラビア語はコーランや民族の言語であるとの認識からアイデンティティであると捉えていたことが示された。

先行研究のFindlow (2006)⁽²⁰⁾はUAE人学生のアイデンティティについて「2つの言語を使用することで相対する文化を融合し、新しいアイデンティティを築いている」と指摘していたが、本調査結果から、学生のアイデンティティは母語であるアラブ文化にあると考える。

シンガポールにおける言語とアイデンティティの研究者である奥村 (2006)⁽⁴³⁾は、バイリンガル政策下での英語教育について「(英語も)言語の意味の体系である限り、単なる『道具』、『手段』として使用することは難しい。どの言語もその言語が成立してくる過程には、歴史的・文化的背景を背負っている」と指摘する。

UAEの学生が英語を「ツール」として使用しつつも複雑な心境であった背景には、英語がもつ意味体系を潜在的に感知していたからではないだろうか。従って自己のルーツを辿るアイデンティティが二言語使用により「新しいアイデンティティを構築」することは容易なことではなく、むしろ葛藤が生じるといえるだろう。今日、世界的にバイリンガル教育が過熱している現状では、言語とアイデンティティの関連性につ

いて大いに議論されるべきである。

筆者の調査から既に5年以上が経ち、UAEのアラビア語離れは加速の一途を辿っている。調査対象者のEが当時「私たちはアラビア語と英語をよくミックスする。つまりアラビッシュを話す」と述べていたが、近年の新聞記事には「アラビッシュ」という言葉が見出しに見られるようになった。つまり、英語の中にアラビア語が混合される状態で、UAEの言語もシンガポール英語やインド英語のように「アラビッシュ」とWorld Englishesの1つの言語変種として位置づけられることが考えられる。

UAEのように多様な人種の変動が激しい言語状況を観察していくことはグローバル化により言語が交差する現代社会において一助となると考える。

8. 調査の限界と今後の分析課題

本研究は、2010年6月上旬にUAE現地で行ったインタビュー調査を中心としているが、この時期UAEの大学では学年末の試験期間であったため、より多くの学生や教員へのインタビューの実施が困難であった。従って調査対象者数が少なく、少数の意見を持って一般化することはできない。今後は、量的調査を行い多数のサンプルから現状を導き出すことが必要である。また今回のインタビューの対象者はアラブ人、インタビュアーは日本人で英語を媒介語として質疑応答を行ったが、今後はアラビア語を使用するなど言語の壁を越え、より深くアラビア語と英語の動向を探っていきたい。

註

1 World Englishes (世界諸英語)はKachruによって提唱され、世界の英語の普及を3つの同心円で説明している。中心円とは英語圏の国々を指す(米国、英国等)、次に周辺円には旧植民地において、英語を公用語もしくは準公用語と定めている国々が属す(インド、シンガポール等)、最後の円は拡大円と呼ばれ、英語を外国語として使用する国々がこれに当たる(日本、中国等)。英語の使用が世界的に拡大するにつれ、英語は多文化的なアイデンティティを持つようになった。現在これらの英語の使用者や使用に対し謬見がある一方で、その多様性と正統性を認めようという動きもあり、World Englishes という概念が定着しつつある。(Kachru「世界諸英語のティーチング」

2009.9. pp.79-81)

- 2 United Arab Emirates (UAE) population statistics. (n.d.). <http://www.dubaifaqs.com/population-of-uae.php>より情報取得
- 3 松本弘『現代アラブを知るための56章』2013.6. p.20
- 4 アラブ民族主義は、西洋列強による変動に直面したオスマン帝国下の東アラブ地域で19世紀末から20世紀初頭に萌芽し、その目的は、オスマン帝国の支配からの自立や西欧の帝国主義からの解放である。(北澤義之『現代アラブを知るための56章』2013.6. p.211)
- 5 1920年代の半ばまでに英国とフランスが中東の支配者になり、新たな国境のほぼ全てを画定し、統治者を選び出し、どのような形の政府を作るべきかを決めた。さらに、中東地域にねむる天然資源へのアクセスとその分配方法について、米国と協力して決定を下したのも英仏であった。(オーウェン『現代中東の国家・権力・政治』2015.2. pp.29-30)
- 6 水谷周『アラビア語の歴史』2010.6. p.7
- 7 フェルスターへ、K.『アラビア語の世界：歴史と現在』2015.9. p.379
- 8 Ferguson, A. C. Diglossia. 1964. pp.24-26
- 9 ダイグロシアとは、アラビア語圏などの社会における言語二層状態を指し、上位変種 (High variety) と下位変種 (Low variety) が存在する。上位変種は教会・モスクでの説教、書簡、議会等の演説、大学の講義、ニュース放送、新聞の社説、詩歌等で用いられる言語で、下位変種は召使等への指示、家族や友達との会話、ラジオのソープ・オペラ、風刺漫画のキャプション、民族文学で用いられる言語である。(榮谷温子「アラビア語ダイグロシアの現状」『日本中東学会年報』1997.3. p.331)
- 10 木畑洋一『国民国家を問う』1995.7. p.5
- 11 Harik, I. The Origin of the Arab State System. In Salame, G. (Ed.), The Foundations of the Arab State. 2002. p.24 [日本語訳引用者] 白杵陽「国家・民族・アイデンティティ」立山良司(編)『中東』2002.8. p.289
- 12 掘抜功二「アラブ首長国連邦における国家変容と『国民』形成：国籍法と結婚基金政策を事例に」『日本中東学会年報』2009.7. pp.89-91
- 13 濱田秀明「JOEMEC」『UAE (アブダビ) 資源開

- 発状況』2013. p.1
- 14 UAE Government: Human Rights-UAE interact. https://uaeinteract.com/government/human_rights.aspより情報取得
- 15 The National紙 (2011年5月14日) “Majority of Dubai’s Emirati children attend private schools” <http://www.thenational.ae/news/uae-news/majority-of-dubais-emirati-children-attend-private-schools>より情報取得
- 16 星川啓慈『国際化時代のアイデンティティ: 民族と文化の揺らぎのなかで』1998.12. p.242
- 17 エリクソン, E. H. 『アイデンティティ: 青年と危機』1982.11. p.294
- 18 板垣雄三『歴史の現在と地域学』1992.12. pp.213-234 [引用者] 白杵陽「国家・民族・アイデンティティ」立山良司 (編) 『中東』2002.8. p.294
- 19 ムッサラーム, B. 『アラブ人』1984.8. p.11
- 20 Findlow, S. Higher education and linguistic dualism in the Arab Gulf. 2006. pp.22-26
- 21 同上 p.34
- 22 Palfreyman, D., & Al Khalil, M. A funky language for teenzz to use: Representing Gulf Arabic in instant messaging. 2003. <http://online.library.wiley.com/doi/10.1111/j.1083-6101.2003.tb00355.x/full> 印刷頁1-24より情報取得
- 23 同上 印刷頁 pp.2-3
- 24 ハイブリッド言語とはCook (2004) による造語である。アフリカの都市部の若者が異なる言語を土着の言語に組み込みコード・スイッチングすることを指す。アラビア語においては, El Essawi がアラビア語の音韻をローマ字表記することをハイブリッド言語と呼んでいる。(El Essawi. 2011. p.253)
- 25 Palfreyman, D., & Al Khalil, M. A funky language for teenzz to use: Representing Gulf Arabic in instant messaging. 2003. <http://online.library.wiley.com/doi/10.1111/j.1083-6101.2003.tb00355.x/full> 印刷頁 p.24より情報取得
- 26 口語 (方言) をローマ字や数字を使用し表記することで文語にはない音韻を表している。
- 27 Palfreyman, D., & Al Khalil, M. A funky language for teenzz to use: Representing Gulf Arabic in instant messaging. 2003. <http://online.library.wiley.com/doi/10.1111/j.1083-6101.2003.tb00355.x/full> 印刷頁 p.18より情報取得
- 28 同上. pp.20-21より情報取得
- 29 Warschauer, M., Said, G. R. E., & Zohry, A. G. Language Choice Online: Globalization and Identity in Egypt. *Journal of Computer-Mediated Communication*, 7 (4). (2002) <http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/j.1083-6101.2002.tb00157.x/full>より情報取得
- 30 同上, ResultsのTable 1より一部抜粋
- 31 El Essawi, R. Arabic in Latin Script in Egypt: Who Uses It and Why? 2011. pp.253-284
- 32 同上 pp.272-276
- 33 オリエンタリズムとは, オリエントを扱うためのーオリエントについて何かを述べたり, オリエントに関する見解を権威づけたり, オリエントを描写したり, 教授したり, またそこに植民したり, 統治するためのー同業組合的の制度とみなすことができる。簡単に言えば, オリエントを支配し再編成し威圧するための西洋の様式なのである。(サイード, E. 1986.10. p.4)
- 34 Findlow, S. Higher education and linguistic dualism in the Arab Gulf. 2006. p.34
- 35 Palfreyman, D., & Al Khalil, M. A funky language for teenzz to use : Representing Gulf Arabic in instant messaging. 2003. <http://online.library.wiley.com/doi/10.1111/j.1083-6101.2003.tb00355.x/full> 印刷頁 pp.20-21より情報取得
- 36 コード・ミキシングとは「言語の混合」を意味し, コード・スイッチングとは「コード (言語) の転換」を指す。(カルヴェ, J. 2002.1. p.43)
- 37 本田孝一『ステップアップ・アラビア語』1998.6. pp.123-126及び付録
- 38 アラビア語保護協会についてのパンフレット『ターゲット: アクションのメカニズム』アル・カシミ, M.(1999)より抜粋。アラビア語で記載されているため翻訳は日本在住のアラブ人の翻訳者が行ったが, 匿名希望である。
- 39 Fishmanは, 英語を母語としない世界において英語は中立的で道具の様なイメージ「民族性とイデオロギーの重荷がない」とみなすと流布した。(フィリップソン, R. 2013.3. p.12)
- 40 ビジン語とは, ビジン・イングリッシュが最初の例で, シナ海 (東シナ海と南シナ海) に沿って, イギリス人と中国人が交易で接触する過程で発達した。語彙は英語から借用し, 統辞法は中国語から借用した言語で, 混成語を指す。(カルヴェ, J.

- 2002.1. pp.42-43)
- 41 The National紙 (2015年3月1日).
Special report: Arabic 'at risk of becoming foreign language in UAE'. <http://www.thenational.ae/uae/education/20150301/special-report-arabic-at-risk-of-becoming-foreign-language-in-uae>より情報取得
- 42 The National紙 (2016年6月12日).
'Foreign teachers in big demand at UAE schools'. <http://www.thenational.ae/uae/education/foreign-teachers-in-big-demand-at-uae-school>より情報取得
- 43 奥村みさ・郭俊海・江田優子ベギー『多民族社会の言語政治学：英語をモノにしたシンガポール人のゆらぐアイデンティティ』2006.11. p.3
- 参考文献**
- ・ Ahmed, A. (2011, May 14). Majority of Dubai's Emirati children attend private schools. The National. Retrieved May 27, 2016, from <http://www.thenational.ae/news/uae-news/majority-of-dubais-emirati-children-attend-private-schools>
 - ・ アル・カシミ, M. (1999). 『ターゲット：アクションのメカニズム』(訳者・匿名希望). アラビア語保護協会. [原著：Al-Qassimi, S. (1999). Al-Hdaf: Alyh Al-Mal. Imara Al Shalrqa: Jamyat Hemayat Al-Lughah].
 - ・ カルヴェ, L. J. (2002). 『社会言語学』(萩尾生・訳). 白水社. [原書：Calvet, L. J. (1993). La sociolinguistique. Paris : Presses Universitaires de France].
 - ・ 大工原桂 (2009). 「湾岸産油国における高成長と経済的歪み：UAE・サウジアラビアを中心に」『中東研究』第500号, 29-46頁. 中東調査会.
 - ・ El Essawi, R. (2011). Arabic in Latin Script in Egypt: Who Uses It and Why? In Al-Issa, A., & Dahan, L. (Eds.), *Global English and Arabic: Issues of Language, Culture, and Identity* (pp.253-284). Bern: Peter Lang Publishers.
 - ・ エリクソン, E. H. (1982). 『アイデンティティ：青年と危機』(岩瀬庸理・訳). 金沢文庫. [原著：Erikson, E. H. (1968). *Identity: Youth and Crisis*. NY: W. W. Norton & Co., Inc].
 - ・ Ferguson, C. A. (1964). Diglossia. In Thom Huebner (Ed.), (1996). *Sociolinguistic perspectives: papers on language in society* (pp.25-39). NY : Oxford University Press.
 - ・ Findlow, S. (2006). Higher education and linguistic dualism in the Arab Gulf. *British Journal of Sociology of Education*, 27(1), 19-36.
 - ・ 濱田秀明 (2013.9.8). 「UAE(アブダビ)の資源開発状況」『JOGMEC』2016年5月15日 http://oilgas-info.jogmec.go.jp/pdf/4/4991/1309_out_h_00_UAE_Resource_trend_2013.pdfより情報取得
 - ・ Harik, I. (2002). The Origin of the Arab State System. In Salame, G. (Ed.), *The Foundations of the Arab State*. (pp.19-46). London: Routledge. [日本語訳引用者]白杵陽 (2002). 「国家・民族・アイデンティティ」立山良司(編)『中東』(271-301頁). 自由国民社.
 - ・ 本田孝一 (1998). 『ステップアップアラビア語』白水社.
 - ・ 掘抜功二 (2009). 「アラブ首長国連邦における国家変容と『国民』形成：国籍法と結婚基金政策を事例に」『日本中東学会年報』第25巻. 第1号, 83-111頁. 日本中東学会.
 - ・ 星川啓慈・田丸徳善・桜井元雄(編) (1998). 『国際化時代のアイデンティティ：文化と民族の揺らぎのなかで』春秋社.
 - ・ 板垣雄三 (1992). 『歴史の現在と地域学』岩波書店. [引用者]白杵陽 (2002). 「国家・民族・アイデンティティ」立山良司(編)『中東』自由国民社.
 - ・ Kachru, B. B. (2006). World Englishes and Culture Wars. In Kachru, B. B., Kachru, Y., & Nelson, C.L. (Eds.), *The Hand book of World Englishes* (pp.447-460). West Sussex : Willy- Blackwell.
 - ・ カチュル, ブラジ. (2009). 「世界諸英語のティーチング」(加澤恒雄・松岡結・訳). 『広島工業大学紀要教育編』第8巻, 79-85頁. [原著：Kachru, B. B. (1992). *Teaching World Englishes*. In B. B. Kachru (Ed.), *The other tongue : English across cultures* (pp.355-364). Urbana, IL : University of Illinois Press].
 - ・ 木畑洋一 (1995). 「世界史の構造と国民国家」木畑洋一・西川長夫・加藤博ほか(編著)『国民国家を問う』(3-23頁). 青木書店.
 - ・ 北澤義之 (2013). 「アラブ民族主義：統合と自立をめぐる地域を揺るがせた思想」松本弘(編著)『現代アラブを知るための56章』(210-213頁). 明石書店.
 - ・ 松本弘 (2013). 「地理歴史：アラブの起源と拡大」松本弘(編著)『現代アラブを知るための56章』(20-23

- 頁). 明石書店.
- ・ムッサラーム, B. (1984). 『アラブ人』(柳澤修・訳). 日本放送出版社. [原著: Musallam, B.(1983). *The Arabs: A Living History*. Glasgow: William Collins Sons & Co. Ltd].
 - ・水谷周 (2010). 『アラビア語の歴史』国書刊行会.
 - ・奥村みさ・郭俊海・江田裕子ベギー (2006). 『他民族社会の言語政治学: 英語をモノにしたシンガポール人のゆらぐアイデンティティ』ひつじ書房.
 - ・オーウェン, R. (2015). 『現代中東の国家・権力・政治』(山尾大・溝淵正季・訳). 明石書店. [原著: Owen, R.(2004). *State, Power and Politics in the Making of the Modern Middle East*(3rd ed.). NY: Routledge].
 - ・Palfreyman, D., & Al Khalil, M.(2003). A funky language for teenzz to use: Representing Gulf Arabic in instant messaging. *Journal of Computer-Mediated Communication*, 9, (1). Retrieved May 27, 2016, from <http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/j.1083-6101.2003.tb00355.x/full>
 - ・Pennington, R.(2015, March 1). Special report: Arabic 'at risk of becoming foreign language in UAE'. *The National*. Retrieved May 27, 2016, from <http://www.thenational.ae/uae/education/20150301/special-report-arabic-at-risk-of-becoming-foreign-language-in-uae>
 - ・Pennington, R. (2016, June 12). 'Foreign teachers in big demand at UAE schools'. *The National*. Retrieved June 27, 2016, from <http://www.thenational.ae/uae/education/foreign-teachers-in-big-demand-at-uae-schools>
 - ・フィリップソン, R. (2013). 『言語帝国主義: 英語支配と英語教育』(平田雅博・信澤淳・原聖ほか・訳) 三元社. [原著: Phillipson, Robert.(2003). *Linguistic Imperialism*.(6th, ed.). Oxford: Oxford University Press].
 - ・サイード, E. W. (1986). 『オリエンタリズム』(板垣雄三・杉田英明・監修)(今沢紀子・訳)平凡社. [原著: Said, E. W.(1978). *Orientalism*. NY: Georges Borchardt Inc.].
 - ・榮谷温子 (1997). 「アラビア語ダイグロシア研究の現状」『日本中東学会年報』第12号, 329-363頁. 日本中東学会.
 - ・UAE Government: UAE interact.(n.d.). Human Rights. Retrieved May 15, 2016, from https://uaeinteract.com/government/human_rights.asp
 - ・United Arab Emirates (UAE) population statistics. (n.d.). Retrieved May 27, 2016, from [http:// www.dubai.faqs.com/population-of-uae.php](http://www.dubai.faqs.com/population-of-uae.php)
 - ・フェルステーヘ, K. (2015). 『アラビア語の世界: 歴史と現在』(長渡陽一・訳). 三省堂. [原著: Versteegh, K.(2014). *The Arabic Language* (2nd, ed.). Edinburgh: Edinburgh University Press].
 - ・Warschauer, M., Said, G. R. E., & Zohry, A. G. (2002). Language Choice Online: Globalization and Identity in Egypt. *Journal of Computer-Mediated Communication*, 7 (4). Retrieved May 28, 2016, from <http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/j.1083-6101.2002.tb00157.x/full>